

**[成果情報名]普通期栽培における水稲「なつほのか」の収穫適期**

[要約]水稲「なつほのか」の普通期栽培における良質良食味米生産に適した収穫適期は、出穂後の積算気温でおおよそ1050℃から1200℃であり、成熟期から成熟期の6日後までの7日間である。

[キーワード]水稲、なつほのか、収穫適期

[担当]長崎県農林技術開発センター・農産園芸研究部門・作物研究室

[連絡先](代表)0957-26-3330、(直通)0957-26-4350

[区分]農産

[分類]普及

[作成年度]2019年度

---

**[背景・ねらい]**

本県では、2016年に高温登熟性に優れた早生水稲品種「なつほのか」を奨励品種に採用し、2018年からの本格生産が開始した。「なつほのか」の安定生産のためには品種特性にあわせた栽培管理の徹底が不可欠である。

そこで、良質、良食味米生産のための「なつほのか」の収穫適期を明らかにする。

**[成果の内容・特徴]**

1. 成熟期（株全体の黄化粃割合がおおよそ80%以上）までの出穂後の積算気温は約1050℃である（図1）。
2. 成熟期までの出穂後の積算気温を1050℃とすると、株の最長稈穂での成熟期の目安は、稔実黄化粃割合で約80%、稔実緑粃割合で約5%である（図2）。
3. 検査等級は出穂後の積算気温がおおよそ1050℃から1200℃の間（成熟期から成熟期の6日後）で高い（図3）。
4. 出穂後の積算気温で1200℃を超えると（成熟期の7日後以降）、食味が低下することがある（図4）。

**[成果の活用面・留意点]**

1. 本情報は農林技術開発センター内水田（中粗粒グライ土）において普通期栽培で得られた情報である。
2. 早期栽培では出穂後の気温が高温で推移することや穂肥の施肥量が高温対策のため増えることも考えられるので、別途、早期栽培での登熟特性を検討する必要がある。
3. 葉色が濃く生育過剰となった場合は、成熟期が遅くなり指標の積算気温で収穫すると青未熟粒が多くなるおそれがあるので、粃の黄化状況から成熟期を確認して収穫する。

[具体的データ]

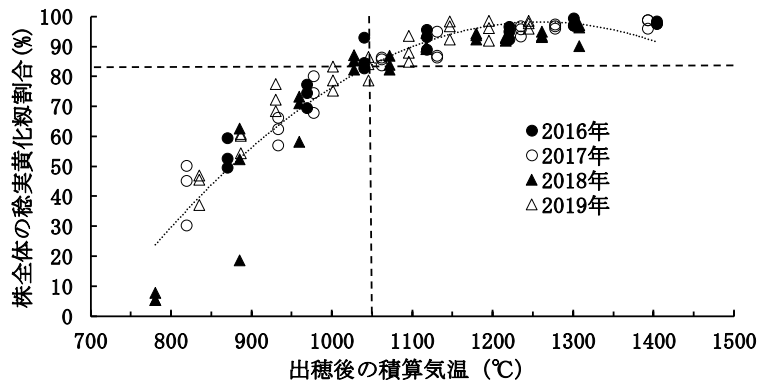


図1 出穂後の積算気温と株全体の稔実黄化粒割合

注) 移植は機械移植で6月4半旬,栽植密度は20.8株/m<sup>2</sup>(30cm×16cm),窒素施肥量は基肥5kg/10a 穂肥(幼穂長2mm程度)3kg/10a,稔実粒の黄化程度は生育中庸な代表株3株を抜き取り調査した,気温は長崎県農林技術開発センター観測値,品質調査は代表株に隣接する3ヵ所各10株刈り,掛け干し粒摺り後1.8mmで調製した玄米を調査した,以下同じ

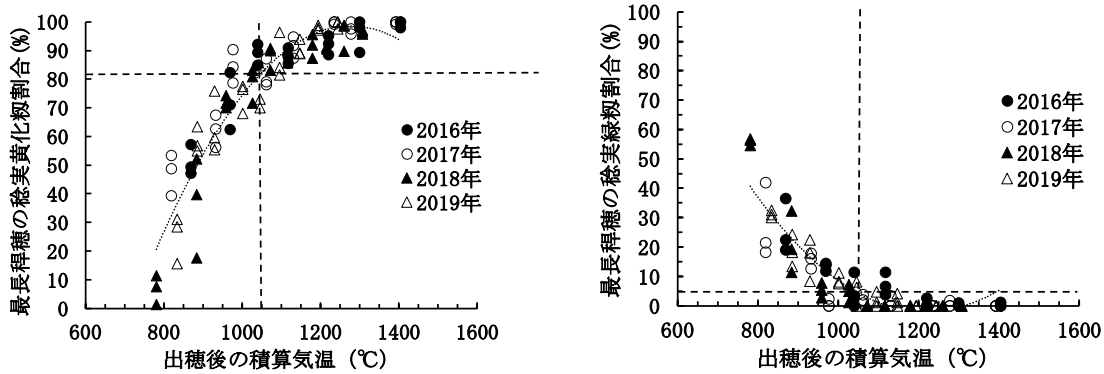


図2 出穂後の積算気温と最長稈穂の稔実黄化粒と稔実緑粒の割合

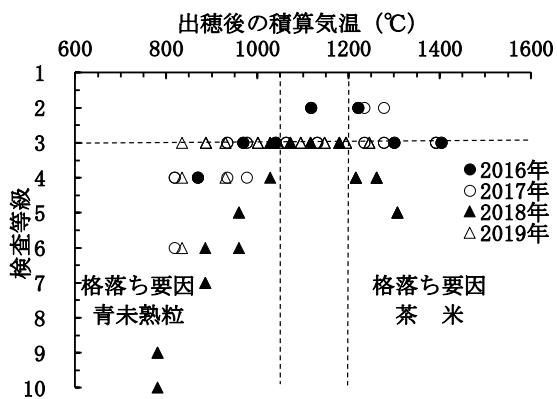


図3 出穂後の積算気温と検査等級

注) 検査等級は 1~3: 1等, 4~6: 2等, 7~9: 3等, 10: 規格外

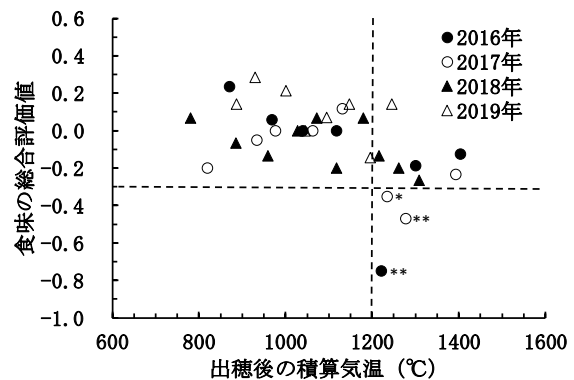


図4 出穂後の積算気温と食味評価

注) 食味評価の基準は成熟期収穫の「なつほのか」, 評価は-3(かなり不良)から3(かなり良)の7段階評価マーカー横の記号は\*: 5%, \*\*: 1%水準で有意

[その他]

研究課題名: 「おてんとそだち」等の栽培技術確立

予算区分: 県単

研究期間: 2016~2019年

研究担当者: 古賀潤弥、中山美幸